

事業名 こどもの日常を支える居場所づくり事業(2年目)

特定非営利活動法人ゆるり家

① 事業の目指すところ

居場所の欠如は孤独・孤立と深く関係しており、こどもが安心して過ごせる居場所は不可欠である。少子化や地域とのつながりの希薄化により、こどもたちが放課後に自由に過ごせる時間や場所は限られ、体験格差も大きな課題となっている。

本事業では「駄菓子や」という形を通して、保護者の申し込みを必要とせず、無料で利用できる居場所をつくり、こどもが自分の意志で来られる環境を整える。長年続けてきた古民家での居場所づくりから小学校の横での居場所づくりへとシフトし、居場所の存在をより身近なものとする。あわせて、大人がゆるやかに見守る中で自由に遊べる野外の冒険あそび場を開催するとともに、居場所に関する情報提供も行い、体験格差の解消を目指す。

② 活動内容(回数・人数は2025年12月末までの実績)

(1)放課後あそび場 おきらくだがしかし…

7月までは毎週水曜日放課後にゆるり家、月曜日放課後 つどいの館(まちづくり天満)で実施。

8月以降は毎週月曜日放課後につどいの館(まちづくり天満)で実施。

毎月第2水曜日(8月以外) フードパントリー「どうぞのはこ」とおにぎりの日 同時開催

おにぎり・お味噌汁、食料品、お菓子などの提供。おにぎりは子どもたち自身がつくって食べる。駄菓子やに遊びに来たついでにフードパントリーを利用することで、生活困窮の子やヤングケアラーの子も、自然な形で食料を持って帰ることが可能となっている。

(2)冒険あそび場ゆるぱ 実施場所:稻美中央公園

幼児や小学生の参加者を中心に、禁止事項をできるだけなくし、「自分の責任で自由に遊ぶ」ということを基本に何でも自由な遊びができる「冒険あそび場(プレーパーク)」を開催する。稻美町内外のグループに呼びかけ、共同開催することで、より多くの大人たちと子どもにとっての遊びの大切さを共有し、一緒に親子に野外での活動の場を提供した。

| 活動名 | 開催回数 | 参加人数(大人) | 参加人数(こども) |
|--------------------|------|----------|-----------|
| 放課後あそび場 おきらくだがしかし… | 45回 | 152人 | 810人 |
| 冒険あそび場 ゆるぱ | 3回 | 40人 | 67人 |



③ 事業の成果と課題、今後の展望

「放課後あそび場 おきらくだがしかし…」は、昨年度から始めた小学校のすぐ横のつどいの館での開催回数を増やすことで、子どもたちへの周知を図った。その結果、昨年度は50人に満たなかったつどいの館での参加者が500人近くに増えた。長年活動してきた古民家の活動拠点を手放すことで、子どもたちの行き場がなくなることを心配していたが、新しい場所も子どもたちに認知されたようで安心した。

「冒険あそび場 ゆるぱ」は、他団体との協働により、担い手の負担を軽減しながら開催することができた。冒険あそび場は、子どもが主体的に考え、安心して挑戦できる居場所として地域に大切な場であり、今後も他団体との連携により、無理ない形で継続できる仕組みを作っていくたい。